東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010 年 10 月 15 日

金 曜 礼 拝

親愛なるムスリムの皆様。周知のとおり、金曜日はイスラームにおいてとても重要であると見なされている崇拝行為のための日です。金曜日の重要性については、預言者ムハンマドから多くのハディースが伝承されています。例えばあるハディースでは預言者ムハンマドは次のように仰せられています。「太陽の昇る最も尊い日は、金曜日である。アーダムはその日創造され、その日天国に入り、その日に天国から出た。最後の審判の日も金曜日となるだろう。」またあるハディースでは「必要な清めを行なった後、モスクへ行き説教を聴き、礼拝を行う人は、その前の金曜からその週の金曜の間に行なった罪が許される。」と知らされているのです。

金曜礼拝は、義務であることが啓典でもスンナでも学者たちの見解の一致においても確かとされた、説教を含む 2 ラカートの、集団で行なわれる礼拝です。崇高なるアッラーは「信仰する者よ。金曜礼拝のための呼びかけが行なわれたら、取引を中止してすぐにアッラーへの祈念のために急ぎなさい。これはあなた方のためによりよいこととなるだろう。礼拝を行なった後は各地に赴き、アッラーの恵みから与えられるものを求めていなさい。アッラーを多く想念しなさい、それによって救われるだろう。」と命じられておられます。

金曜礼拝は青年期に達した、健康で、奴隷ではなく自由民でありまた旅行中でもないイスラーム教徒の男性にとって義務とされています。金曜礼拝が女性達には義務とされていないということは、女性にとっては禁止ではなく、参加しなくても問題ないという許しなのです。もし望むなら、モスクへ行き集団で金曜礼拝を行なっても問題はないのです。

学者たちは、金曜礼拝が有効となるためのいくつかの条件を挙げています。それらは時間、集団、町、モスク、許し、そして説教とされています。宗派の間で様々な違いはあるとしても、時間として定められているのは正午の礼拝の時間帯です。集団として示されているのは、この礼拝のためにはイマームを除き少なくとも三人がいなければいけないということです。町というのは、金曜礼拝が行なわれるのは町、あるいは町のような立場にある定住地で行なわれなければならないということを示しています。モスクというのは、可能な限り金曜礼拝は単一のモスクで行なわれる必要があるのです。ただ、町の大きさを考慮して、学者たちは、他のモスクで礼拝を行なっても構わないという見解を出しています。許しというのは、国家の長、もしくはその代理人、あるいは彼らによって権限を与えられている一人の人物がその礼拝を先導しなければならないということです。そして説教について述べるなら、その意図はアッラーを想念することです。従って説教という意志で「アルハムドリッラー」「ラー　イラーハ　イッラッラー」ということによっても、説教を果たしたことになるのです。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。集団における相違を考えるなら、読まれている説教が皆によって同じように理解されないということは非常に自然なことです。ただ、読まれている際にはーそれが分からなかったとしてもー話すこと、さらには話している人を黙らせるために注意することですら、ハラームに近く避けるべきものとされているのです。このため、礼拝の前に説教の文章が参加者に配られています。また説教を聴く者が左右を見渡したり、あいさつを交わしたり、礼拝を行なったりすることも避けるべきものとされています。

金曜日の重要性を鑑み、その週の祝日であるというような意識を持ち、金曜礼拝を決してないがしろにしないようにしましょう。信者がまず宗教的なものの他、様々な分野での知識を得ることを目的としている説教は、いつでも静かに聴くようにしましょう。最大限にそれを生かすことが出来るよう努めましょう。みなさんの金曜礼拝が祝福されたものとなりますように。